

2019/02/10

「まず、神の国と神の義を求めよ」

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」(マタイ 6:33)

私たちが求めるべきものの第一番目は、「神の国と神の義」です。これを突き詰めて考えると、私たちは自分からは何もできることになります。私たちは神の前に沈黙するしかないのです。

「まず第一に」ということは、何かしようとするその前に、常に神の国を求めるということです。それは、「何をするにしてもその前に祈る」ということになります。そして、私たちは、真剣に祈れば祈るほど、神の前に訴える言葉が見つかなくななり、ただ神の思いを聞くという態度に変わってきます。本気の祈りは、人を聞く者に変えるのです。

「神の思いを聞く」とは、御言葉や私たちの思いの中に働く神の思いを通して、神に導かれ、神の慰めを受け取ることです。イエス様は、神の前に聞く者の姿を学ぶために「空の鳥、野のゆりを見なさい」と言われました。私たちは彼らから、どのようなことを学ぶことができるでしょうか。

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。」(マタイ 6:26-28)

1. 沈黙

鳥や草花は、言葉を発しません。人間は、言葉を話せるがゆえに、自分の考えを神に押し付け、文句を言い、神を従えようとしてしまいます。

「何をするにもその前に祈る」とは、神の前に沈黙し、最終的には聞く者になるということです。

沈黙とは、神を信頼する証しです。神が私を養ってくださると知っているから、何もしやべる必要はなく、静かに神の声を聞いていれば良いという信頼です。しかし、人は、神の声を聞こうとする前に訴えを起こしてしまうのです

私たちは彼らから沈黙を学ぶべきです。風も空も森もすべての被造物は沈黙しています。自然を通して、神の前に静かに聞く姿を学び、まず神の声を聞いて慰めを受け取りましょう。

神は私たちに「私の弟子になりなさい」と求めておられます。それは、人の慰めではなく、

神が与える慰めを受け取る者となることです。神のことばを聞くなら、それがあなたを養い、あなたに力を与えます。

あなたは、神のことばを聞く者になっているでしょうか。自分の考えを神に訴え、自分の考えに合わせようとしているのでしょうか。

2. 待つ

彼らは、寒い冬の中にあっても「いつ春が来るのですか」とは聞かず、日照りの中にも「いつ雨が降りますか」とも聞きません。イエス様は「心配したからといって、誰も自分のいのちを延ばすことはできない」と言われましたが、それはすべてに時があるということを表しています。彼らは、ただ沈黙しているわけではなく、必ずその時が来る事を知っているので、待つことができるのです。

ところが人間は、神がすべてを請け負ってくださるという約束をただ待つということがなかなかできません。つい「いつですか」「主よ、いつまでですか」「いつ約束を果たしてくれるのでですか」と聞いてしまいます。

沈黙して待つ者は、神の約束が果たされた瞬間がわかりますが、不満に目を留めていると、その瞬間を見落としてしまいます。そして、神の恵みの中にあることを見失ってしまうのです。

春は鳥がいっせいにさえずり、草花の芽吹く季節です。彼らは沈黙して待っているがゆえに春が来た瞬間がわかるのです。こうしてすべての被造物は主を賛美します。

私たちも静かに静まり、どんな時も私たちを養ってくださるという神の約束を信じて、神の前に沈黙して待つなら、その瞬間がわかり、神の恵みの中で生かされていることを体験して感謝できるようになります。

3. 苦しみを引き受ける

「きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださいらないわけがありましょうか。」

(マタイ 6:30)

草花は、いつ自分が抜かれてしまうか、枯れてしまうかわからない苦しみを背負っています。鳥たちも、えさがいつ尽きてしまうかわかりません。しかし、そのような苦しみに対しても彼らは沈黙し、不平不満を発することなく、誰が悪いかと責めることもしません。

ところが人間は、そのような状態になると、不平不満を言い、誰の責任かとすぐに犯人探しをし合います。そうすることで苦しみを排除しようとするのですが、実は、不平不満を言うことで、人はさらなる苦しみを背負っています。人のせいにすると憎しみが生まれ、自分の内にある怒りが倍増し、苦しみは増し加わります。また、忍耐して待つことができないの

で、居ても立ってもいられないという思いに苦します。

鳥や草花は、沈黙して待つことで、私たちのような苦しみを背負わずに済んでいるのです。口を開くことが自分をつらくさせるのですから、現状を見て文句を言うのではなく、そのまま引き受けてみましょう。神を信頼し、時を待つのです。

■まず第一に求めるとは

「神の国とその義とをまず第一に求めよ」と言わざると、人は往々にして、礼拝さえきちんと守っていれば、あとは何をしてもいいだらうと、自分勝手な道を歩みたがります。

神はこのような私たちの弱さをよくご存知でしたので、「まず第一に」とスタート地点だけをお示しになりました。この御言葉を守り、鳥や花のように、まず第一に神の国と神の義を求めて生きると、神の慰めを受け、神の恵みが見えるようになります。その素晴らしさを味わうと、人生のすべての場面において神と共に生きることがやめられなくなり、自分自身で勝手に描いていた計画に興味を失ってしまうようになります。これが神の導きです。

私たちは、人や見えるものに慰めを求め、それが手に入らないと不平不満を並べ、苦しみを増し加えてしまいます。しかし、神が造った被造物を見ると、彼らは神を信頼して沈黙し、その結果神の恵みを得て、喜びを知っているということに気がつきります。

人は、彼らよりも優れたものとして造られましたが、神の前にどのように生きているでしょうか。私たちは言葉を与えられていますから、父なる神様とのコミュニケーションにも言葉を使います。しかし、全知全能の神の前に、私たちは赤ちゃん同然の存在です。赤ちゃんと親は対等に会話できるでしょうか。私たちが親である神を信頼しゆだねて沈黙していても、神はすべての面倒を見てくださいます。神は祈る前から私たちの願いをご存知です。ですから、神の上に立って神に指図をするような傲慢な生き方ではなく、神の前にただ聞く者になります。祈りとは聞く者になることです。そうすれば神の恵みが見えるようになり、神からの慰めに気づいて、それを受け取ることができるようになります。